

### 第30回『撮れなかった一枚の写真』

第30回目の道徳では、フォト・ジャーナリストの吉田ルイ子さんがベトナム戦取材中に抱いた葛藤を記した文章を通して、ヒューマニズムや職業観について考え、人としてよりよく生きていくことについて考えました。フォト・ジャーナリストの吉田ルイ子さんは、ベトナム戦争で避難する人々を撮影していました。赤ちゃんと子どもを連れた母親を「絵になる!」と撮ろうとしたとき、母親は子どもの顔を隠し、自分はレンズから顔を背けました。吉田さんは、シャッターを押すことができず、冷や汗が流れます。撮りたかったのに撮れなかった、この一枚の写真について、プロの

フォト・ジャーナリストとしての<sup>かしゃく</sup>呵責に悩み続けた吉田さん。その後、あの写真は撮らなくてよかったのだ、事実を見たことが重要だったと信じて、吉田さんは、「フォト・ジャーナリストである前に一人の人間でありたい」と思うのでした。

#### みんなの意見



筆者は、どうしてシャッターを押すことができなかつたのでしょうか。

- どんない悲惨さをとらえたとしても、戦争は終わらないことを母親が行動でしめしたから。
- 子どもたちを守るようにしたその母親を撮ることは、その母親が守ろうとしたものを傷つけてしまうように感じた。
- 戦争で苦しんでいる人の写真を撮っても、その人の苦しさに変わりはないから。
- 写真を撮っても戦争が終わるわけではないし、もし撮ったら自分はお金とかもらえるけど、その家族は何も得しないから。
- 被害者のつらさが伝わってきて、急に怖くなってきたから。

#### 「よりよく生きる」ことについて思ったことや考えたこと

- 今回の授業で人として大切なことは何か分かりました。職業を優先し、人として大切なものを見落としてはいけないと思いました。賞よりも人の心を大切にしたいルイ子さんの判断は間違えてないと思いました。
- 一人の普通の人間でありたいということは、写真を<sup>ちゅうちよ</sup>躊躇した時の状況を見て、一番最初に「絵になる!」と思うのではなく、「かわいそう」と思える人間でありたいということであると思う。
- 困っている人がいる状況で、かわいそうと思うだけでなく、何かをしてあげたいと思えるような人になりたいと思った。

**「よりよく生きる」ために、  
自分が大切にしたいことは何ですか？**